

「みえの子ども白書フォーラム」

～子どもの心によりそうために～



日時：平成24年12月1日（土）13：30～16：00

場所：三重県庁講堂（津市広明町13）



三重県は、子どもが健やかに育つことのできる地域社会の実現をめざして、平成23年4月1日、「三重県子ども条例」を施行し、同条例に基づいて、「みえの子ども白書2012」を発行しました。この白書は、子どもと保護者、県民の方あわせて約1万2千人へのアンケート調査の結果や子どもをとりまく状況の資料をまとめたもので、子どもと大人の意識の違いや、大人との関わりかたが子どもの育ちに影響するような状況が見えてきました。そこで、三重県は子ども白書の内容を多くのかたに知っていただき、大人が子どもの気持ちに近づくにはどうすればよいか考えるきっかけにいただくため、「みえの子ども白書フォーラム」を開催しました。

プログラム

13：30 あいさつ 三重県知事 鈴木英敬

13：35 第1部 基調講演「みえの子ども白書が語ること」
講師 佐々木光明さん（神戸学院大学教授）

14：25 第2部 こども会議発表
「大人に伝えたい子どもの気持ち」

15：00 第3部 パネルディスカッション
コーディネーター
石阪 督規さん 東京未来大学准教授
パネリスト（50音順）
安藤 大作さん 三重県 PTA 連合会会長
佐々木 光明さん 神戸学院大学教授
中野 和代さん 津市教育委員会教育長
鈴木 英敬 三重県知事



第1部 基調講演 「みえの子ども白書が語ること」

講師 佐々木光明さん
(神戸学院大学教授)



- ・三重県子ども条例は、子どもの声を聞きつつ、丁寧に作られました。条例に述べられているように、最も大切なことは、子どもが自分のことを大切な存在だと思えることです。
- ・子ども白書に出てくる数字から考えるべきことは、大人問題つまり社会の中の大人側が抱えている問題だと思います。
- ・「あなたはあなたであればいい。」自分を大事にできれば、自分に少し自身が持てます。
- ・子どもと向き合うときの大切な出発点は、子どもが自分を大切にできること、「権利」という言葉が持つ「互いに尊重しあうこと」だと思います。
- ・子どもの権利条約第3条、三重県子ども条例第3条にある「子どもの最善の利益」(the best interests of the child)を考えると、大人が、子どもの真ん中にあるもの(ニーズ、子どもそれぞれの興味関心)を探り近づいていくこと。
- ・大人と子どもの関係づくりには、大人が冷静にかつ理性ある姿勢で、子どもの言葉を聴き、きちんと向き合うことが重要です。「みえの子ども白書」から、大人と子どもが一緒になって考えていきましょう。



第2部 こども会議発表 「大人に伝えたい ぼくたち私たちの気持ち」

小学生の部



1. 家族内での悪口は言わないで。
2. もっとほめて！話をきいて！
3. きげんしだいでおこらないで。
4. 注意するなら大人もちゃんとして。
5. 先生、しかるときはビシッとしかって。
6. 先生、公平にしてください。
7. 先生、もっと一人一人のことを見てください。
8. 先生、むりやりザツに決めないで。



中学生の部



1. 信じて、ありのままの私たちを受けとめてほしい。
2. 悪口を子どもの前で言わないください。
3. まず自分の行動を見つめ直して。



高校生の部



1. 子どもと向き合い、意見を頭ごなしに否定せず理解してほしい。
2. 私たちに注意する前に、大人が模範を示してほしい。
3. ぼくたち子どもの思いを応援してほしい。
4. 「高校生らしく」で、片づけないで。
5. もっと人と人として関わってほしい、一方的な過干渉はやめてほしい。



鈴木知事からの言葉

子どもは一生懸命に生きているからこそ大人をしっかりみえています。大人は襟を正し、子どもに向かい合っていかなければいけません。



第3部 パネルディスカッション

- コーディネーター 石阪督規さん（東京未来大学准教授）
- パネリスト（50音順） 安藤大作さん（三重県PTA連合会 会長）
佐々木光明さん（神戸学院大学教授）
中野和代さん（津市教育委員会 教育長）
鈴木英敬（三重県知事）



それぞれのお立場で考えて頂いたことを話し合っていました。

- ・子どもたちの発表は素晴らしかった。大人は子どもの声で気づかされ、親は子どもによって大人にしてもらえる。親であっても、自分の弱さを子どもにさらけだして、子どもと一緒に努力しよう。
- ・子どもは、親に自分を見てほしいと思っています。親子で話し合うことで心が通じあえば、子どもの自己肯定感につながります。
- ・子どもたちの人生に正解を求めすぎない。正解を大人が勝手に作ってそれを子どもにはめ込まないこと。子どもの一つ一つの「できた」を良く見てあげ、一緒になって心から喜ぼう。
- ・高齢者の方たちが、会社をリタイヤしてセカンドステージに入っていくときに、子どもたちに関わって一緒に活動すると、地域力が高まり、変わっていきます。
- ・子どもの育ちを応援することが、他人事じゃなくて自分事だと思う大人を増やし、そんな大人をつないでいく取組が重要だと考えます。



来場者の感想（来場者アンケートより）

20代女性

子どもたちとしっかり向き合えるよう心がけ、子どもたちの心によりそっていききたい。

20代男性

子どもたちが提言してくれたことをしっかりと受け止めて、子どもたちの模範となる大人になれるよう努めていこうと思う。地域の様々な人たちと協力していくことの大切さも改めて実感しました。

30代女性

子どもの意見を聞く場が増えれば、地域も変わるのではないかと思います。

40代男性

大人と子どもは上下関係ではなく、フラット（対等）な関係である。傾聴と認めることを続けていきたい。又、今の親の育ちの支援もしていきたい。

40代女性

もっと子どもを一人の人間として尊重し理解あって、いっしょに成長していきたい。

30代女性

大人としては子どもの将来のことを考えて、子どもと接しているつもりが、こちらが思ったように育ってほしいという枠にはめようとしているのかもしれない。子どもたちを教える者として、彼らの意思が自分の思っている枠に当てはまらない時、なぜそのような意思を持つようになったのかそこに向き合っていく必要があると思いました。

40代男性

大人（親）が子どものことを心配する気持ちもわかってもらいたい。そのためには”向かい合って”、”語り合う”、”とことん話す”ことを心がけ、大人と子どものつながりを深めたいと思います。

50代男性

大人と子どもが本音で話し合える関係を作るには、まず大人が変わらなければ。

50代女性

大切なことは子どもときちんと正面から向き合うことだと感じました。



取材を終えて

子どもの最善の利益＝子どもの真ん中にあるものは、それぞれ違うものなんですね。大人がそれを見つけて認めていくことが大切だということが分かりました。ですが、大人は、自分の理想の子どもを作り上げようと無理強いをしたり、大人の都合で物事をすすめがちです。大人は子どもの見本となるよう自分を整えて、これからの社会を担う子どもたちの声を聴くこと、家庭や地域であたたかく子どもを見守っていくことが大切だと感じました。